

文部
讀本

小學習字帖

尋常科用

七

C21
福岡縣
尋常師範
學校

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 3 2 8 4 1 a

福岡教育大学蔵書

社會科學 門

教 育 部

教 育 法 款 書 道 項

目 次

全 冊ノ内第 冊

分 類 第 號

372.82

T14

72

F74

MADE IN JAPAN

福地源一郎著

正價金六錢五厘

文部
讀本
小學
習字
帖
尋常科用
七

海石村田浩藏書

我國ハ本州北海道四國九州琉
球豆南の諸島嶼より成り地形

半方ふ似て畿内及び東海東山
北海小陸山陽山陰南海西海の

諸道に分ち一道廳三府四十三
縣あり殊ふ 皇統の連綿たる

ハ世界よ比類なき國なるヲ

西門合し土佐の鯨節讃岐の砂

糖筑前の蠟燭紀州の蜜柑肥前
乃陶器藝州の牡蠣唐土の漆も名

産にて高貴なり物と存し

大椿と云ふ人を學問を好む修

行に費用盡き一時を炒豆錢少

く宛名志く飢を忍び四書五經

の素讀講義を終り遂に生望と
叶つたり又支那の車胤の螢と

囊に入きて燐ふ代（孫康の雪
明りよて書を讀み」と云）あ

沖繩の甘蔗北海道の林檎西京
の杉葉等々度々農産物共進會

とて一覽と見事と品と有之以

常夏と學校休暇と所尊父様

山田道より大和廻りよ方筋御
見物でいふ成坂走つて吉野は於て

も後醍醐天皇の清廟（清）余宿
め北楠正行が歌を残せる如意

輪堂を初と一河内の金剛山橋
州の湊川を舁大塔宮新田義貞

乃古跡なと涉巡回て有之と美
と奉存也

織田信長ある時侍臣玦集めて
佩刀玦示し此鞘の刻と目と云

ひ中ける者何れぞ此刀を與へ
んとやされし時ふ侍臣ハ皆我

こぢはと其教を推し測りてや
を香森蘭丸を獨り默然とて

和へ居をりて云ふ是は何故ふ
りや

立花道雪と云へる勇將の歩行
不自由なれど手輿ふ乗り壯士

等に見せて戦ふ態こそと棒ふ
て叩きふぐう音頭を取り催促

敵軍進撃し指揮をふりたる由
天正頃の美談と承りし

豊臣秀吉は筑阿弥の養子とて
遠江乃相下之綱を抱へらま

弑事に托して去り織田信長より
仕へ或時下駑を脊中に入まて

暖めたるが用むられし始にて
其後清洲の城壁乃割普請を成

志く評定衆より美濃の富嶺
城に逼り其功ふ依りて祿を増

はま相金乃瓢箪と以て馬を
しりし中國の軍中にて主君

信長明智光秀を弑せられし
閑ま歎の毛利と和睦して光秀

を討ち次で柴田勝家澁川一益
佐々成政等を平げ四國の長曾

我邦元親關東の北條氏政隆奥
の伊達政宗九州の島津義久等

を或を滅ぼし或は降して天下
と一統し關白左政大臣とふれ

朝鮮まで我が政入るるハ古今
小比呂起英雄なり

船流失届

第貳千三百四拾五號

一小傳馬船 壹艘

右私所持船二隻地先河岸繫

置候處本月五日夜流失仕族二
付即日御訴申上相尋候（共行

方不相分倏依之沛鑑孔返納此
股沛屬申上侯也

東群馬郡前稿市町其番地

明治年月日

丹治耕作



前橋町長兵頭援殿

改印届

長崎市東濱町八百番地士族

蟻川完治

右按素相用候實印磨減致彦

付今般印鑑之通改印仕彦此段
御届申上彦也

年月日

石 蟻川完治 印

長崎市長伯耆原出雲殿

(印鑒雖形)

印鑑○

明治年月日

蟻川完治

印紙

手附金請取證

一金捨圓也

右は浪文の洋服巾代價金卷
捨圓の内所手附トレテ渡下

正請取尸以上

洋服裁縫師

年月日

岡崎端三印

出賃貞任様

印紙

送状

一箱詰絹織物 貳個

但元價金貳百圓也

右は關東丸と以て正に積送以

條着之砌改所入記之下地

横濱市弁天通臺丁目番地

年月日

矢澤條右清

印

神戶市河原禮助殿揚

長島久三郎殿行

印成

賣品預り證

一蒸氣機關

壹個

但英吉利製と造所用

右ハ今般金八百五拾圓ニテ賣

船へ賣渡し安んずる也即時引
取て有る所船積し此都合に由

り来れ廿日迄に預りし置は間
此所持参しき所何時にても

引智三所渡三中以爲後日預り
證仍テ如件

大阪市東區今橋貳丁目四番地

年月日

湯川慶次
印

那須精名滿殿

村海石筆



版權所有

明治廿四年二月
出版御届
日

全年月
版權登錄濟

全年月

見方非贗品

著者

東京府平民

福地源一郎

東京名橋區築地二丁目五番地

書者

大阪府平民

村田浩藏

大阪東區土軒町廿五番屋敷

發行無
印刷者

東京府平民

西田傳助

東京深川區地第三十四號

印刷製本發賣所

生成舎

繁本良之助

大阪東區土軒町廿五番屋敷

廣岡幸助

東京深川區地第三十四號

廣岡商店

東京室町三丁目七番地

